

先生
教えて!

獣医師さんの健康講座

「いつもと違う」を見逃さない! 愛猫ボディチェックのコツ



お答えいただいた先生
やまかわ動物病院 院長
山川 洋司 先生

「最近あまりうちの子とスキンシップしていないなあ。」

食事やトイレの世話は毎日していても、
触れ合う時間がとれないこともありますよね。

でも、愛猫の体の変化に、いち早く気づいてあげられるのは飼い主さんだけ。
毎日のスキンシップを楽しみながら、健康チェックを習慣にしてみませんか。
いつも触っていれば、それだけ変化に敏感になりますよ。

ドクターズアドバイス +



目

目ヤニや涙がたくさん出ているか、目をしょぼつかせたりしていないか。目の白濁や充血などもチェックポイント。



耳

耳がにおわないか、ペトペトした耳アカが出ていないか、耳をかいたり、頭を振ったりしていないかなど。子猫や保護した猫には、耳ダニ感染による外耳炎がよく見られます。



口・舌
歯・歯茎

猫は口内炎、歯周病、歯が溶ける歯頸部吸収病巣など、口内のトラブルが多い動物です。口を開けて、舌や歯茎の色や腫れ、歯のぐらつきや歯石、口臭などのチェックを。歯茎が白い場合は、貧血が疑われます(鼻や肉球がピンク色の子は、貧血すると鼻や肉球も白くなります)。



鼻



“青ばな”のような色のついた鼻水や鼻血は要注意!



毛・皮膚

脱毛、フケ、湿疹、しこり、赤くなったり、かゆがっているところはないか確認。猫は犬に比べて皮膚のトラブルは少ないですが、春から夏は、ノミアレルギー性皮膚炎が増えます。小さなぶつぶつができる、ひどくかゆがります。



足

ふらついたり、足をひきずったり、歩き方の変化もよく観察を。猫は、関節のトラブルも犬ほど多くありませんが、まれに股関節形成不全やリウマチなどが見られます。その他、純血種のスコティッシュフォールドに、遺伝性の骨軟骨形成異常の疾患が見られることも。

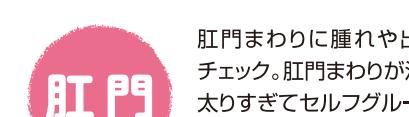


肉球・指・爪

肉球や指の間をしきりに舐める場合は、炎症を起こしている可能性があります。また活動量が減り爪とぎの力も弱くなる高齢猫の場合は、爪が伸びすぎて巻き爪になることもありますので、気をつけて。



愛猫が触らせてくれない場合は?



肛門

子猫の頃から慣らしていないと、頭は触られてくれても、体はなかなか触られてくれない子もいるようです。猫がリラックスしているときに、やさしくマッサージして、少しずつ慣らしていくましょう。ただし、猫が嫌がるほどしつこく深追いしないこと。なかにはどうしても触らせない猫もあります。その場合は危険ですので、日を改めてチャレンジしてみましょう。



最も注意したい「多飲多尿」!

猫で最も注意しておきたいのが「多飲多尿」。あまり水を飲まなかった猫が急に飲み始めたり、排尿の回数や量が増えたら要注意。糖尿病や高齢猫に多い慢性腎不全の典型的な症状です。

危険な
痩せ信号!

あまりごはんを食べず、急激に痩せてきたという場合は、糖尿病、腎不全、腫瘍性疾患などの可能性があります。

上から

背骨の突起(棘突起)がとんがって見える場合は、痩せすぎ。逆に、腰にくびれが見られなかつたり、背中が広く真っ平らになっているのは、明らかに太りすぎです。

立たせて

お腹の張りは、猫を立たせた方がわかりやすいかも。お腹の周囲に両手の指を回し、ぐっと押さえ込むようにして確認します。内臓脂肪の付きすぎ、腹水などが張りの原因に。

仰向けに寝かせて

猫がリラックスして仰向けに寝転がっているときは、お腹をチェックするチャンス。皮膚に赤みや出来物、しこりなどがないかを確認。避妊していないメスは乳腺腫瘍にも注意して。

横から

横から見て、肋骨が浮いているのは痩せすぎ。逆に、脇腹を触ってみて、肋骨や肩甲骨がわからなければ太りすぎ。力を入れずに普通に触って、肋骨が数えられるぐらいがベストです。

お腹



張りやしこり、皮膚の確認

2

3

愛猫の変化を見逃さないで!

病気の早期発見チェックリスト

愛猫は具合が悪くても、言葉で伝えられません。

日頃からこんなところに気をつけて、健康チェックをしてあげてくださいね。



1 食欲はどうですか?

- 食べない。急に食欲がなくなった。
(いつもと同じだけあげているのに、残してしまう)
- 偏食が多くなった。
(以前はふつうに食べていたものを食べなくなった)

2 体型はどうですか?

- 太ってきた。
- やせてきた。
(よく食べるのに、やせてきた)
- おなかが膨れてきた。
- 身体の一部分が腫れている。

3 歩いている様子は?

- 歩くのがつらそう。
- 元気がない。
- 歩き方がいつもと違う。

4 目はどうですか?

- 目ヤニが出る。
- 目をつぶる。(まぶしそうにする)
- 目(結膜)の色が赤い。
- 目の表面(角膜)が白く見える。
- 目の内側(水晶体)が白く見える。
- 目をかゆがり、こする。

5 口や歯の様子は?

- よだれが出る。口を閉じない。
- 食べたそうにするのに食べられない。
- 出血している。
- 口臭がひどい。
- 歯が抜けた。(乳歯以外)
- 歯が重なって2重にはえている。
- 歯茎や舌の色が悪い。
(白くなっている)

6 毛や皮膚は?

- 毛の状態がおかしい。
(毛が一部分だけ抜けたり、不揃いになっている)
- かゆがっている。
- 虫(ノミやダニなど)がついている。
- 皮膚が赤くなっている。
- 皮膚がただれています。
- フケが多い。

7 耳はどうですか?

- 耳をかく。(かゆがる)
- 耳の中が臭い。
- 頭をしきりに振る。
- 耳の中が汚れている。
- よだれが出る。
(よだれが止まらない。悪臭があつたり血が混じっている。あぶく状になっている)

8 便の様子は?

- 血が混じっている。
- ゆるい。(便が軟らかい)
- 下痢をしている。
- 便が出ない。(便秘をしている)

9 尿の様子は?

- おしっこの色がおかしい。
(赤い、白っぽい、黄色い、など)
- 出ない。少ない。
(出そうとしているのに出ない)
- いつもはトイレなのに、違う場所で粗相してしまう。
- 1回の量が多く、無色透明で無臭。
- においがきつい。

10 ほかにも、こんなことに気をつけましょう

- 水をよく飲むようになった。
- 吐く。
- 体の一部分をしきりにためる。
- 咳をよくする。
- お尻をこすりつける。
- 鳴き声がおかしい。
- よだれが出る。
(よだれが止まらない。悪臭があつたり血が混じっている。あぶく状になっている)

獣医師さんの健康講座

先生
教えて!

春夏はこんなことにもご注意!

暖かくなると、ノミ、ダニ、マダニなどの寄生虫も活動を始めます。
寄生されるとかゆいだけでなく、皮膚病を引き起こしたり、様々な病気を媒介したり、
人にうつって害を及ぼすこともあります。しっかり予防しておきましょう。
また犬は人よりずっと暑さに弱いので、「まだ早いかな」と思っても、
熱中症には気をつけてあげてください。



寄生虫対策

フィラリア

犬だけでなく、猫も感染

フィラリア(犬糸状虫)は、蚊が媒介する、心臓や肺動脈に寄生する寄生虫です。フィラリア症は犬の病気と思われがちですが、実は猫も感染します。感染してもほとんど症状が出ないこともありますが、咳や呼吸困難、嘔吐などが見られたり、突然死することも。予防薬があるので、心配な場合は、動物病院で相談を。



ノミ・ダニ 病院で処方された駆除剤で、駆除・予防の徹底を

猫の場合、とくに注意したいのがノミ。ノミの感染機会は外の草むらだけではありません。感染猫との接触や、同居の人や犬が外から持ち込むこともあります。室内飼育の猫でも油断はできません。ノミは非常に繁殖力が強く、室内でも繁殖します。成虫を駆除しても、生活環境中には卵や幼虫、さなぎの状態で潜み、再寄生の機会をうかがっています。もし寄生が見られたら、安易に市販の駆除剤で済ませず、動物病院で駆除剤を処方してもらいまし定期的な投与で駆除・予防を徹底しましょう。中途半端な対応では根絶できず、いつまでも悩まされることになります。

熱中症にさせない

夏の蒸し暑い部屋に閉じ込められれば、猫も熱中症になりかねません。猫だけでお留守番させるときは、部屋のドアを開けたままにしたり、換気扇を回すなど、風通しをよくすること。また猫が自分で涼しい場所を見つけて移動できるようにしておきましょう。猫の快適温度は人とほぼ同じなので、飼い主さんが暑くない程度であれば大丈夫ですが、気温が高い日はエアコンが必要になることもあります。

症状 苦しそうな呼吸から始まり、進行すると意識障害へ舌を出してハアハアと苦しそうに呼吸する、大量のよだれを出す、ぐったりする、目や口腔粘膜の充血などの症状が見られ、さらに進行すると、意識が混濁したり、呼びかけに反応しなくなったり、けいれんを起こすこともあります。

対処法 まず体を冷やすこと

涼しい場所に移し、濡らしたタオルで体を包み、タオルが乾かないよう水を補ってください。また、脇、内股、首など、太い血管が通っているところにホースで水をかけるのも、効率的に体温を下げる方法です。自力で水を飲める状態なら、十分な水分補給を。立っていられないような場合は、頭も冷やして、一刻も早く動物病院へ連れて行きましょう。

ワクチン接種は飼い主さんの義務です!

- 外部寄生虫対策(ノミ・ダニなど): 1年中
- 混合ワクチン: 年1回
- フィラリア予防: 4月~12月頃まで



ワクチンで防げる感染症

- 「猫汎白血球減少症(猫伝染性腸炎)」
- 「クラミジア感染症」
- 「猫白血病ウイルス感染症(FelV)」
- 「猫カリシウイルス感染症(FCV)」
- 「猫ウイルス性鼻氣管炎(FVR)」

新しい猫を迎えるには

●1週間は先住猫と隔離

春は出産のシーズン。新たに子猫を迎え入れ、多頭飼育を始める方も多いのでは? そこで大切なのは、まず1週間は先住猫と隔離すること。その間に、動物病院で検便と健康診断を受け、しっかり食べさせて栄養状態をよくしておきます。先住猫にもワクチン接種を忘れずに。

●飼い主さんは干渉しない

健康に問題がなければ、ケージ越しに先住猫と会わせますが、無理強いはせず、先住猫の方からのぞきに来るに任せます。互いにシャーペー威嚇し合っても、飼い主さんは干渉しないこと。1週間ほどすれば威嚇しなくなってくるので、ケージの扉を開けて、慣らしていきましょう。

●新入り猫が小さいほどうまくいく

先住猫との関係は、新入り猫が小さいほどうまくいきます。生後2ヶ月以上になると、相性の悪い猫同士は、一生、仲良くなれないこともあります。その場合には、部屋を分けた飼うしかありません。

